

◆◆ 食育の一環として、小学校で出前授業 ◆◆

6月23日(金)、食育の一環として、徳島農政事務所と共同で、東光小学校(上坂町)の5年生を対象に出前授業を実施しました。

授業では、質問を交えながら、お米の生育に必要な水の量や農薬水とその施設の役割などについて説明しました。また、農薬水の水質悪化と生活排水の関係について学んでもらいました。

授業の最後には、より水質に興味を持ってもらうために、簡易な水質分析器具(バックテスト)を用いた実験や、アメンボ実験を行いました。

今後も、こうした機会には分かり易い授業、楽しい実験が出来るように努め、水と食と農業のつながりや大切さを伝えていきたいと思ひます。

きれいな水  
豊かな農業

～ 下流域だより ～ Vol. 6



アメンボ実験

計画で作ったアメンボの模型を水に浮かべ、洗剤をほんの少し入れます。

洗剤によって、水の性質が変わる(表面張力が弱まる)ことを観察します。ちなみに、アメンボは沈みます。



バックテスト

バックテストと呼ばれる簡易な水質分析器具を用いて、CODを測ります。CODとは、水の汚れの度合を数値化したものです。

今回は、水道水と地区内水踏の水を比較しました。

★編集後記 ☆: 本号では、今切川を横断するサイホン工事を紹介しました。これから平成23年度の事業完了に向けて柿原および第十取水口等の主な施設の工事に取りかかっていきます。出前授業でも説明させてもらっているような事業の効果が一日でも早く吉野川下流域全域で発揮できるよう、地区の皆さんのご協力をいただき頑張っていきたいと思ひます。(平成18年8月21日)

お問い合わせ先:

中国四国農政局四国東部農地防災事務所: 坂野郡坂野町川崎字庄境 2-1 電話 088-(672)-5252

吉野川下流域土地改良区: 鳴門市大塚町萩原字アコメン 3-1 電話 088-(683)-5811

(愛称: 水と土ネット吉野川下流域)

本号の話題

国営幹線水路が今切川を横断します

シリーズ: 事業の目的・効果

食育の一環として、小学校で出前授業

## 国営幹線水路が今切川を横断します！

本号では、国営の幹線水路が今切川を横断する『東部幹線水路（今切川サイホン）工事』について、ご紹介します。

この工事は、徳島市応神町中原地区から北島町高麗地区までの約370m区間で、内径2.4mの鋼合管を今切川の下に通します。完成した水路は、第十取水口から取水した吉野川の水を第十幹線水路経由で北島町・松茂町に送る東部幹線の一部となります。

今回のように河川の下に水路を造る場合は、“推進工法”と呼ばれる方法を用います。川底から5m以上深い地中に通す決まりがあるため、とても深い所で人知れず工事が進んでいます。この工事は、来年の1月までを予定しています。



シリーズ：  
事業の目的・効果

近くに旧吉野川や今切川があるのになぜ新しい水路を造るの？



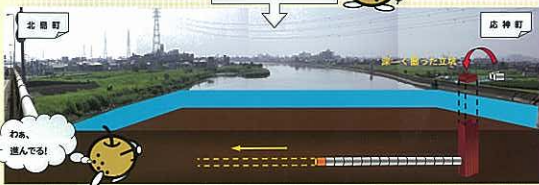
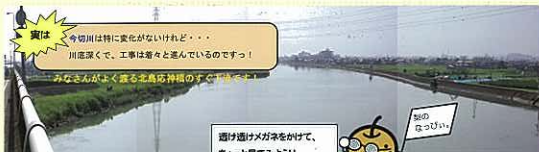
吉野川の水は第十櫓門（上板町）を通り、旧吉野川に入り三ツ合堰地点（北島町）で今切川に分岐して、それぞれの河口堰から海に出て行きます。きれいな吉野川の水ですが、近年、地区内の都市化にもない旧吉野川や今切川に家庭や工場からの排水が入ってきて、農業用水として利用するには少し汚れてきています。そのため、この国営事業で造る幹線水路により吉野川本川の水をきれいな水を農業用水として直接かつ安定的に各地区に配水します。

現在、北島町・松茂町の農家の皆さんは、旧吉野川・今切川および地区内の水路等から取水するために櫓門やポンプを使っています。事業完了後、幹線水路の水が農業用水になりますが、第十堰の上流側にできる第十取水口から、水圧を保った状態で農地まで届くので、取水のために使っている櫓門やポンプは必要なくなります。

これにともない、櫓門やポンプの管理手間と費用が軽減されます。  
※パイプライン整備をする場合は加圧ポンプが必要となります。



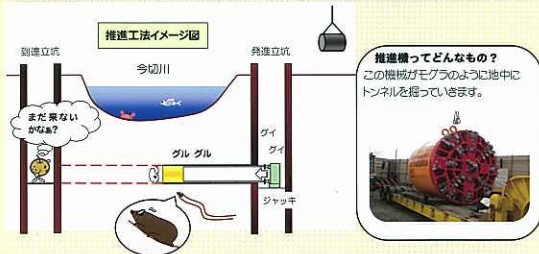
それでは、現地の様子を見てみましょう！



### 推進工法って何？

推進工法とは、地中トンネルを造る工事の方法で、トンネルの先端を推進機（穴を掘る機械）が土砂をモグラのように掘りながら、後方から水路となる管を押し込む事により前進し、トンネル状の水路を造ります。

管を通す区間の両端に立坑という穴を掘り、一方の立坑（発進立坑・応神側）からもう一方の立坑（到達立坑・北島側）へ機械（ジャッキ）で管を押し込んでいきます。



### 推進機ってどんなもの？

この機械がモグラのように地中にトンネルを掘っていきます。

